

消防ヒヤリハットデータベース事例回答シート

【事例概要について】



1. 事故・ヒヤリハットの別	事件事例
2. 体験した事例の名称	はしご登はん訓練中における転落事故
3. 体験した事例の中心的要素	<p>救助技術向上のために、5箇所(高塀・はしご登はん・ロープ渡過・緊急脱出・煙道通過)を隊員5人が互いに協力して順次突破する訓練をしていました。</p> <p>はしご登はん・ロープ渡過・緊急脱出の通し訓練を2人1組で実施中、はしご登はんにおいて塔上に到達する寸前に先行する隊員の足に手が触れてしまいました。</p> <p>その結果、はしごの横さんに手を掛けられず、はしごから両手が離れバランスを失い、背中から安全マット上に転落してしまいました。</p>
4. 体験した事例の原因・理由	連続した訓練によって過労したため、判断力及び体力が低下したこと。

【体験した事例の直接的な原因について】



1. 体験した事例の直接的な原因	情報入力に問題があった。
------------------	--------------

【体験した事例について】



1. 発生日時	平成 18 年 5 月 20 日 午前 10 時頃
2. 発生した当時の天候	晴
3. 発生した活動現場	屋外：消防訓練場の救助訓練塔
4. 体験した事例の種類	回答者が、自分自身で負傷した。
5. 事故の程度（ヒヤリハットの場合、仮に負傷したときの程度）	重傷の怪我
6. どのようなことが起きたのか（起きそうになったのか）	墜落・転落、
7. 事例体験時の活動	演習訓練、 [救助（大会に向けた訓練）、]
8. （7の活動中） どのような作業中に発生したか	登はん訓練、
9. 同様の体験は、これまでにどの程度の頻度で体験していますか。	初めて体験した。

10. ヒヤリハット体験当事者の属性（回答者は当事者A）

○当事者A	年齢[25]歳、勤続年数[2]年、現場経験年数[1]年、階級[消防士]、同様の活動 [頻繁]、任務 [隊員]
○当事者B	年齢[]歳、勤続年数[]年、現場経験年数[]年、階級[]、同様の活動 []、任務 []
○当事者C	年齢[]歳、勤続年数[]年、現場経験年数[]年、階級[]、同様の活動 []、任務 []
その他 (当事者が4人以上の場合)	

11. 事例発生の経過。

	誰(何)が	なにをした	その他・備考など
経過1	A	救助技術向上のために訓練開始	
経過2	A	準備運動実施	
経過3	A	ロープ渡過及び緊急脱出訓練実施	
経過4	A	はしご登はん、ロープ渡過、緊急脱出の通し訓練を2人1組で実施	
経過5	A	5回目の通し訓練のはしご登はん中に、先行する隊員の足に手が触れて横さんに手を掛けられず転落し負傷。	
経過6			
経過7			
経過8			
経過9			
経過10			

【その事例発生時の状況について】



○事故の場合 : 事故が起きたのはどうしてだと思えるか？

ヒヤリハットの場合 : ヒヤリハットで済んだのはどうしてだと思えるか？

体力、反射神経等身体能力が劣っていた。危険情報を把握、予見できなかった。集中力、注意力がなかった。周囲の視界が確保できなかった。他隊(員)との連携活動がうまくいかなかった。

○心理・体調について

a. あせりを感じていた

・早く、現場到着や、活動をしなければならないという“あせり”を感じていた。	はい
・被害拡大が消防活動を上回っており“あせり”を感じていた。	いいえ
・周辺の野次馬などにより“あせり”を感じていた。	いいえ

b. 注意力が欠如していた

・1つの事象に集中し、他の事象への注意力を欠いた。	はい
・活動終息（鎮火等）や活動内容が些細だったため注意力を欠いた。	いいえ

・体調不良や疲れにより注意力を欠いた。	はい
---------------------	----

c. 経験・知識が不足していた。

・活動内容が、自己の能力や技量を超えていた。	いいえ
・活動中に起こりうる危険について認知していなかった。	はい
・活動に対する経験が不足していた。	はい

d. 心身の不調があった

・体調が悪かった。	いいえ
・悩み事があった。	いいえ

○装備・資機材について

e. 資機材の故障・不具合があった。

・装備・資機材自体に問題があった。	いいえ
・装備・資機材の使用方法が誤っていた。	いいえ
・装備・資機材の対処能力を超えていた。	いいえ
・必要とする装備・資機材がなかった。	いいえ

○活動環境について

f. 障害物や自然環境（雨・濃煙）によって視界がさえぎられた。

・障害物（建物等）のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ
・特異環境（煙、暗闇、降雨等）のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ

g. 行動しにくい環境だった。

・狭隘な場所であった。	いいえ
・暑かった（寒かった）。	はい
・野次馬が多かった。	いいえ
・現場周辺の地理に不案内だった。	いいえ

h. 足場が悪かった。

・足元が躓いたり滑りやすかった。	いいえ
・足元の強度が不足していた。	いいえ

○指揮・管理について

i. 適切な指示が得られなかった（適切な指示を与えられなかった）。

・活動指示が得られなかった。（無線が通じない等。）	いいえ
・指示内容に誤り・偏りがあった。	いいえ
・指示内容が実施困難であった。（周辺環境に、隊員技量の把握に欠けた。）	はい

k. 関係者間の情報伝達・役割分担が不十分だった。

・隊員の連携が不十分だった。	はい
・隊員が不足していた。	いいえ

○その他

l. その他の理由があった。

いいえ

【事故発生後の取り組みについて】



○注意力欠如、焦り等の対策について

救助技術訓練では、所要タイムを短縮することに執着していたため、安全に対する注意力が欠如していました。
消防本部として、全職員へ消防業務全般について安全・確実を最優先に考えて実施するように周知しました。

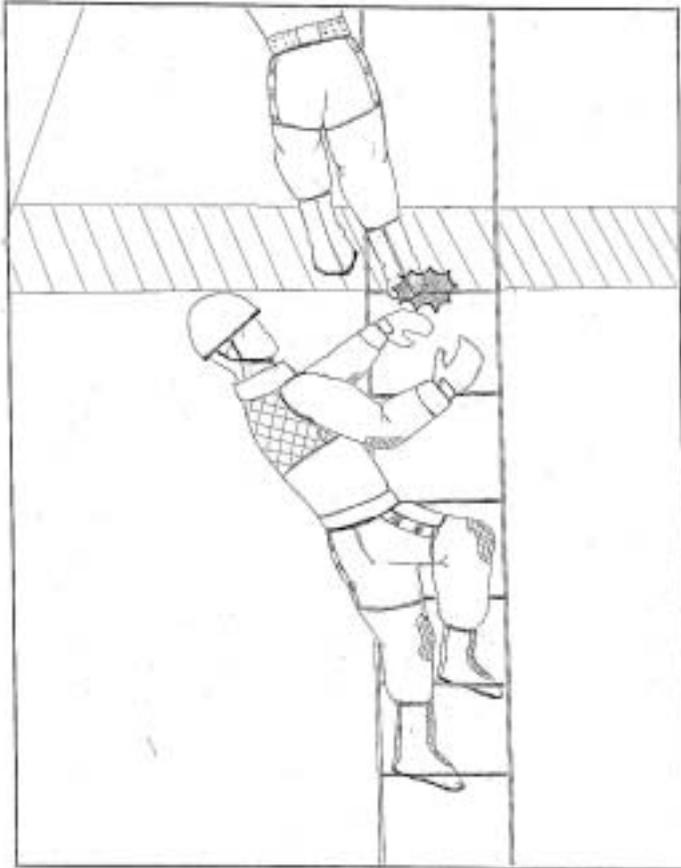
○装備・資機材の対策について

登はん用のはしごを、強度に優れアルミ製品で揺れが少なく、横さんに滑り止めの溝が施されている製品に交換しました。

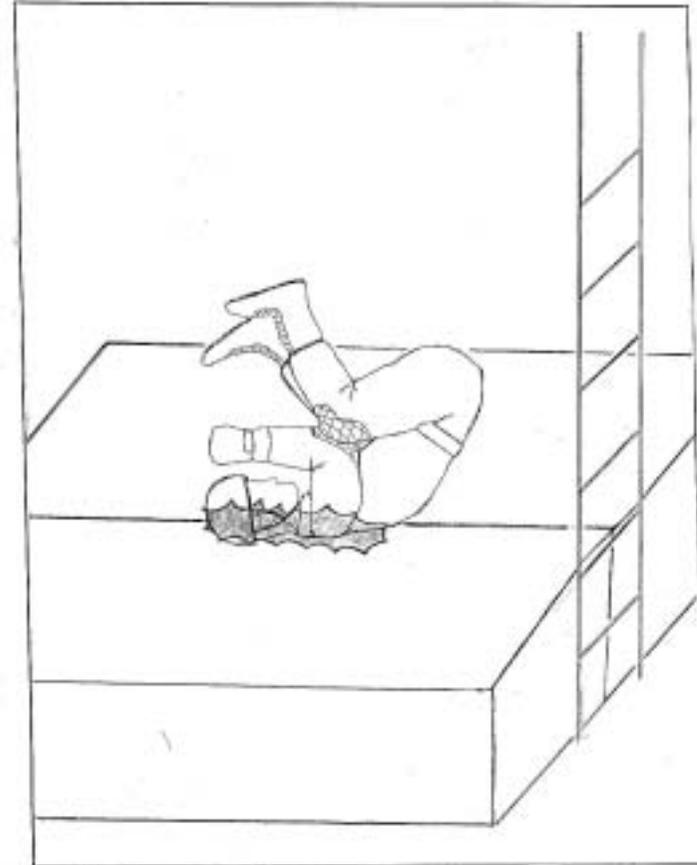
○活動環境の対策について

○指揮・情報伝達の対策について

負傷事故発生状況図（はしご登はん訓練中における転落事故）



先行する隊員の足に手が触れた状況



背中から安全マット上に転落した状況